

秋田の斉一性を学校の教育力に結び付ける

4年前、秋田県の由利本庄市に教育視察に行く機会に恵まれました。由利本庄市の学力は、全国学力学習状況調査結果において、**10年連続全国1位の同県の中でも平均を大きく上回る実績**を残しています。

テーマは、斉一性です

本校の学校経営の根幹となります。その意義については、全号でざっくりとお伝えしましたが、由利本庄市では、このことが、全ての教育活動の中で10年単位のスパンで行われています。

「当たり前のことが当たり前のこととして実践されている」

視察では、小中学校、各1校の2校を、市教育委員会を訪問させていただきました。

「学校に斉一性を」は、私がいつもお伝えをしていることですが、由利本庄市の徹底ぶりは、それをはるかに上回るものでした。

「全ての児童・生徒、教職員の挨拶が徹底されている」

自分から、笑顔で、相手の目を見て挨拶をするのです。小学校も中学校もどの学年もどのクラスも、どの児童も生徒も例外は全くありません。「挨拶のあふれる学校を」と教育目標を立てる学校は多いですが、ここまでの徹底ぶりには「目を見張る」しかありませんでした。

「学習のルールが徹底されている」

板書に赤でふちどりをされた「ねらい、目標」が示されている。終末に振り返りを必ず行い、青でふちどりされた「まとめ」が書かれている。教師や発表者が発言をする際には、私語が全くなく全員が話を聞く姿勢をとり、そちらを向いている。「です」「ます」等、場に応じた言葉づかいが、学習環境の雰囲気を高めている。例外なく、全ての教室がそうでした。

「熱意がすごい」

三世代同居世帯数の割合が高い。一定程度の躰けが身につけている。学習塾がなく学校は勉強しに行くところだという意識が高い。教師を尊敬するという基本姿勢があるなど、学ぶための基本的な環境が整っている背景があることは事実です。

「実態が違う、環境が違う等々を理由に言い訳してはいけない」と強く思いました。わたくしは、組織としての斉一性が「カリキュラムマネジメント」されるなら大きな教育的効果を上げると「ポジティブに考えたいと思います」。

同市の校長先生や各先生、教育委員会の皆さんの「ほとぼしる熱意」にも頭が下がりました。常日頃お伝えしている「全ての児童や保護者の心根に寄り添う支援や全ての児童を学級の宝とする思い」を例外なくどの教室にも感じ取ることができました。これは関北の強みと重なります。

次号は、斉一的に取り組む内容についてさらに具体的に発信をしてまいります